

ICTリテラシー実態調査

つくろう! 守ろう! 安心できる情報社会



総務省 情報流通行政局
情報流通振興課

ICTリテラシー実態調査について

調査の目的

インターネットやSNS上の偽・誤情報やICTリテラシーに関する実態を把握し、ICTリテラシー向上の取組の推進に活用するために実施

調査概要

調査対象 : 5,640名 、 全国47都道府県×15歳以上（10・20・30・40・50・60代以上）×男女
調査方法 : 全国インターネット定量調査
調査期間 : 2026年5月8日～2026年5月13日
調査協力 : 鳥海 不二夫 教授（東京大学大学院工学系研究科）
山口 真一 教授（国際大学グローバル・コミュニケーション・センター）

主要調査項目

偽・誤情報やICTリテラシーに関する利用者の実態把握等

偽・誤情報に対する実態把握等

提示ニュース真偽判定
提示ニュースの拡散経験
提示ニュースの拡散理由
提示ニュースに対して立ち止まって考えた経験
立ち止まって考えた際の行動
立ち止まって考える意向
偽・誤情報に対する認識
認知バイアスの認知・実感

ICTリテラシーに関する実態把握等

ICTリテラシーに関するテスト
ICTリテラシーに対する自己評価
ICTリテラシー向上のための取組状況
ICTリテラシー向上のための取組の非実施理由
ICTリテラシー向上のための素材・サービス評価
安心できる情報社会づくりに向け各組織・団体に期待すること

集計について

総務省統計局「令和2年国勢調査」の人口構成比を基にウェイトバックを行い調整

調査実施における補足

総務省では2025年5月に実態調査を行った。本調査は2025年の調査の枠組みを継承しつつも、調査対象のサンプルや内容を刷新した。

ICTリテラシー実態調査のポイント

- 偽・誤情報の拡散経験別の正答率では、「**拡散した**」と回答した人の中で、全問不正解した人の割合は**48.9%**であり、「**拡散していない**」と回答した人の全問不正解した人の割合（**24.7%**）の約2倍であった。
- SNS上で見かけた情報・ニュースに対して立ち止まって考える意向を尋ねたところ、**79.2%**が「**立ち止まって考えると思う**」と回答した。
- 「認知バイアスを知っている」人の割合は、拡散経験がある人の方が高い（**拡散経験のある人66.5%**、拡散経験のない人52.3%）が、「認知バイアスを持っている実感がある」人の割合は、拡散経験がない人の方が高かった（拡散経験のある人54.3%、**拡散経験のない人59.3%**）。このことから認知バイアスは知識として知るだけでは十分ではなく、自身にも起こり得るものとして理解・自覚することが、慎重な情報判断や拡散抑制につながる可能性が示唆された。

結果の要点

ICTリテラシー：「情報通信サービス等を適切に活用するための能力」として調査

1. ICTリテラシーと偽・誤情報の拡散状況の相関性

- 過去に流通した偽・誤情報を見聞きした人に対して、その内容の真偽を尋ねたところ、「**正しい情報だと思う**」「**おそらく正しい情報だと思う**」と回答した割合は**48.4%**。他方、偽・誤情報に接触した人のうち、何らかの手段を用いて**拡散**した人の割合は**20.3%**だった。
- ICTリテラシーに関するテストにおいて、5問中、全問正解した人の割合は5.6%、全問不正解は39.5%だった。
- 偽・誤情報の拡散経験別の正答率では、「**拡散した**」と回答した人の中で、全問不正解した人の割合は**48.9%**であり、「**拡散していない**」と回答した人の全問不正解した人の割合（**24.7%**）の約2倍であった。

2. 「立ち止まる行動」の重要性

- SNS等での投稿・拡散前に一度立ち止まって考えることは偽・誤情報等の拡散抑制に有効とされているが、SNS上で見かけた情報・ニュースに対して立ち止まって考える意向を尋ねたところ、**79.2%**が「**立ち止まって考えると思う**」と回答した。
- 偽・誤情報を拡散した人のうち、「**立ち止まって考えずに拡散した**」ケースは**45.8%**、「**立ち止まって考えて拡散した**」ケースは**54.2%**。「立ち止まって考えて拡散した」というケースがやや多い傾向が見られた。
- 立ち止まって考えた際の行動としては、「**情報・ニュースについてWEB上で検索をした**」という回答が最も多く、「情報・ニュースの参照元を確認した」、「専門家がどのように言っているのか確認した」が続いた。

3. 偽・誤情報及び「認知バイアス」に関する認識

- インターネットやSNS利用時に「**偽・誤情報等に触れている可能性がある**」と回答した人は**80.6%**で、「**偽・誤情報等を信じてしまう・騙されてしまう可能性がある**」と回答した人は**56.4%**であった。また、偽・誤情報等を信じてしまう・騙されてしまう可能性があると感じている人ほど、情報の真偽判断精度が高い傾向にあった。
- 「**認知バイアスを知っている人**」は**40.3%**で、「**持っている実感がある人**」は**46.8%**であった。また、「認知バイアス」を知っているまたは持っている実感がある人ほど、情報の真偽判断精度が高い傾向がみられた。
- 「認知バイアスを知っている」人の割合は、拡散経験がある人の方が高い（**拡散経験のある人66.5%**、拡散経験のない人52.3%）が、「認知バイアスを持っている実感がある」人の割合は、拡散経験がない人の方が高かった（拡散経験のある人54.3%、**拡散経験のない人59.3%**）。このことから認知バイアスは知識として知るだけでは十分ではなく、自身にも起こり得るものとして理解・自覚することが、慎重な情報判断や拡散抑制につながる可能性が示唆された。
- ディープフェイクを「**自分は見破ることができる**」と回答した人は、**全問不正解の割合が他の回答をした人と比べて群を抜いて高かった（61.5%）**。

4. ICTリテラシーに関する認識・取組状況等

- 自分の**ICTリテラシーについて、平均的または平均より高いと思うと回答**した人は、**83.0%**であった。
- ICTリテラシーの自己認識が平均以上の人の割合は、若年層ほど高い傾向にあり、年代別では10代が最も高かった。
- **ICTリテラシー向上に向けた具体的な取組を「行っていない」**人は**65.8%**であった。
- 取組を実施しない理由としては、「**取組み方が分からない**」（**50.4%**）が最も多かった。
- 使いたい/ICTリテラシー向上に繋がりそうな機能・サービスとしては、「**フェイクニュース注意報**」「**ファクトチェック結果の表示**」「**出典の明示**」と回答した人が多かった。

5. 各組織・団体に期待すること

- 安心できる情報社会づくりの主体に期待する内容としては、いずれの組織・団体に対しても「**正しい情報の発信**」と回答した人の割合が高く、**マスメディア（63.3%）**、**WEBメディア（60.1%）**、**デジタルプラットフォーマー（54.2%）**が上位に並んだ。

1. ICTリテラシーと偽・誤情報の拡散状況の相関性

ICTリテラシーテスト正答率と偽・誤情報の拡散状況

- ICTリテラシーに関するテスト※において、全問正解した人の割合は5.6%、全問不正解は39.5%だった。
- 偽・誤情報の拡散経験別の正答率では、「**拡散した**」と回答した人の中で、全問不正解した人の割合は**48.9%**であり、「**拡散していない**」と回答した人の全問不正解した人の割合（**24.7%**）の約2倍であった。
- 情報の真偽判断精度別では、判断精度が高い人ほど、正答率が高くなる傾向があった。

※「インターネットとの向き合い方～ニセ・誤情報にだまされないために～第2版」を参照し、制作

https://www.soumu.go.jp/use_the_internet_wisely/special/nisegojouhou/

リテラシーテストの正答率 (年代別)

		全 問 正 解	3 ～ 4 問 正 解	1 ～ 2 問 正 解	全 問 不 正 解
	n=				(%)
全体	(5,640)	5.6	25.5	29.4	39.5
10代	(846)	4.6	27.4	31.4	36.7
20代	(986)	7.0	29.4	26.4	37.2
30代	(983)	7.3	22.5	29.1	41.1
40代	(945)	3.3	21.6	31.2	43.9
50代	(940)	5.7	28.2	25.3	40.8
60代	(658)	7.6	24.2	28.4	39.8
70代	(282)	2.5	28.5	37.8	31.2

基数：全体

Q. 次のうち、あなたが、正しいと思うものをすべてお選びください。 ※具体的なテストの内容については17ページ参照

リテラシーテストの正答率 (偽・誤情報の拡散経験及び真偽判断精度別)

※ 真偽判断精度（実態）：
提示した7つの偽・誤情報と
8つの正しい情報の判断精度により分類
HH：60%以上
H：40%以上60%未満
M：20%以上40%未満
L：20%未満

偽判断精度（実態）：
示した7つの偽・誤情報と
の正しい情報の判断精度により分類
H：60%以上
：40%以上60%未満
：20%以上40%未満
：20%未満

全問正解
3
問正解
1
問正解
全問不正解

n=

全体	(5,640)	5.6	25.5	29.4	39.5	
偽・誤 拡散経験別 (実態)	拡散あり（実態）計	(476)	3.3	20.3	27.4	48.9
	拡散なし（実態）計	(1,508)	7.8	36.2	31.4	24.7
真偽判断 精度別 (実態)	真偽判断精度HH	(821)	9.7	40.4	30.0	19.9
	真偽判断精度H	(1,138)	7.0	29.5	30.5	33.0
	真偽判断精度M	(1,820)	4.9	23.3	29.8	42.0
	真偽判断精度L	(1,861)	2.9	15.7	27.9	53.5

基数：全体

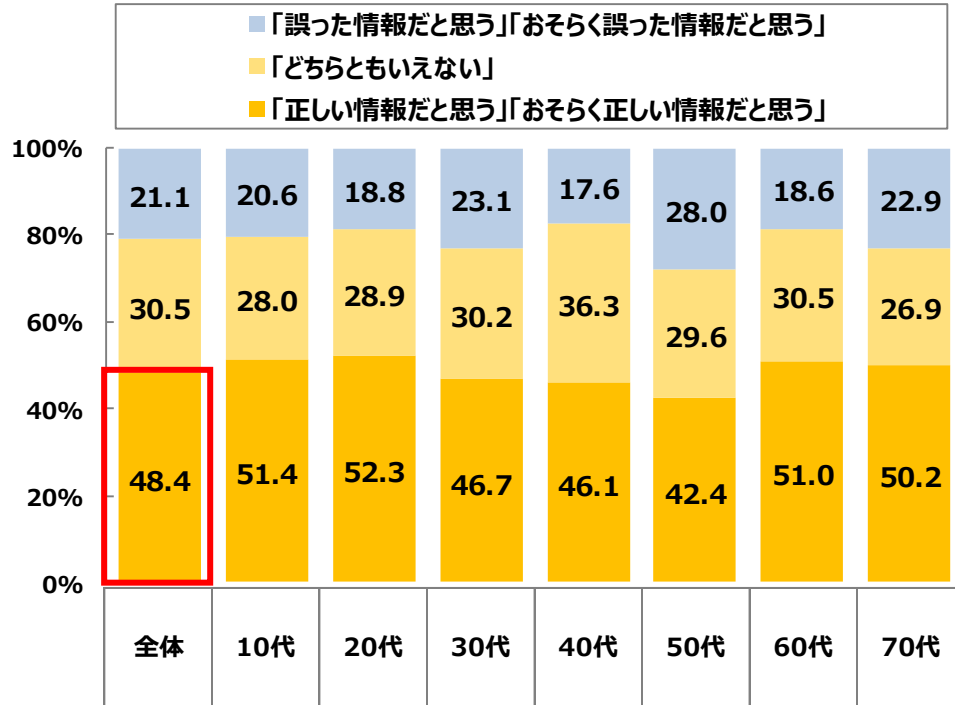
Q. 次のうち、あなたが、正しいと思うものをすべてお選びください。 ※具体的なテストの内容については17ページ参照

1. ICTリテラシーと偽・誤情報の拡散状況の相関性

偽・誤情報の真偽判断・拡散状況

- 過去に流通した偽・誤情報を見聞きした人に対して、その内容の真偽を尋ねたところ、**「正しい情報だと思う」「おそらく正しい情報だと思う」と回答した割合は48.4%。**
- 他方、偽・誤情報に接触した人のうち、何らかの手段を用いて**拡散**した人の割合は**20.3%**で、年代別では10代が最も高い割合となった。

偽・誤情報の真偽判断



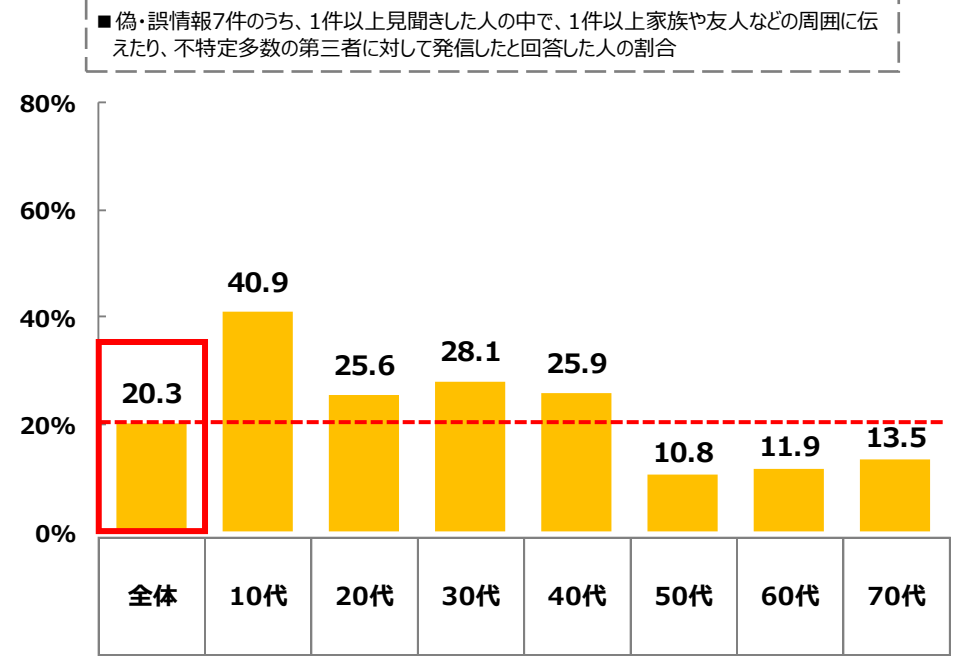
基数：偽・誤情報のうち1件以上見聞きした人（n=1,984）

注1：偽・誤情報の接触数に応じた加重平均で算出
（各情報ごとに、見聞きした人の中で『正しい情報だと思う』と『おそらく正しい情報だと思う』／『どちらともいえない』／『誤った情報だと思う』と『おそらく誤った情報だと思う』と回答した人数をそれぞれ合計したものに對して、各情報について「見聞きした人数」の合計値で割る形式）

注2：基数nはウエイトバック前の数値を記載（本報告書内すべて同様）

Q.以下の情報・ニュースについて、その真偽をどのように考えていますか。あなたの考えに最も近いものを、それぞれひとつずつ選択してください。
※具体的な提示ニュースについては19ページ参照

偽・誤情報を何らかの形で拡散した人の割合



基数：偽・誤情報のうち1件以上見聞きした人（n=1,984）

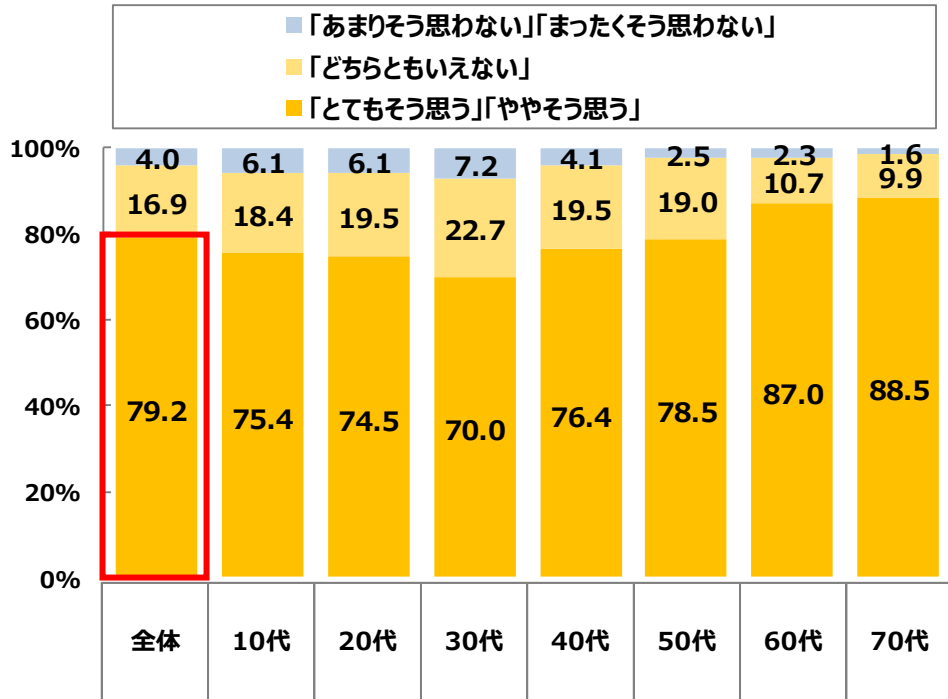
Q.あなたが見聞きしたことのある以下の内容について、家族や友人などの周囲に伝えたり、不特定多数の第三者に対して発信したりしたことはありますか。それぞれ当てはまるものをすべて選択してください。

2.「立ち止まる行動」の重要性

立ち止まる意向・意向のある人の傾向

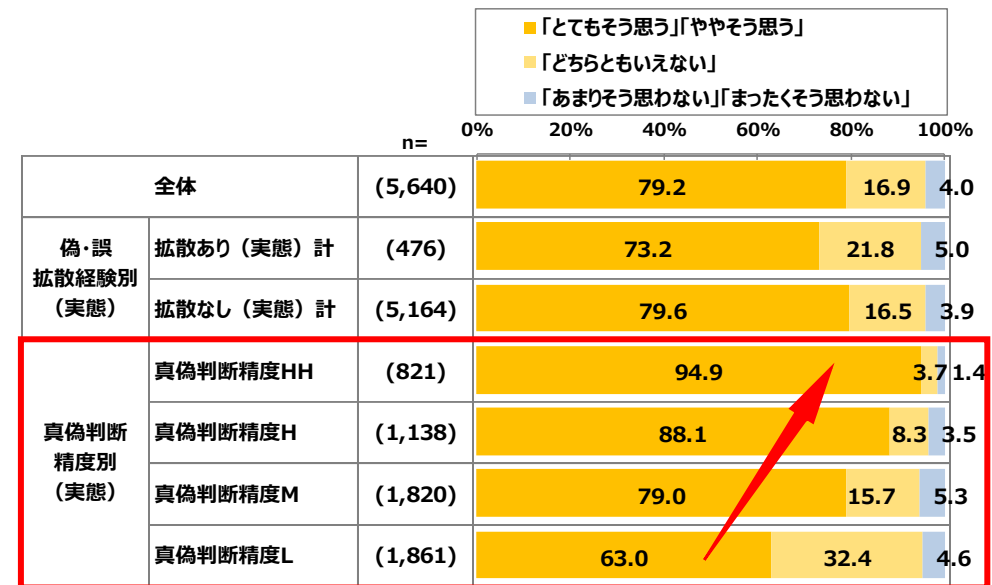
- SNS等での投稿・拡散前に一度立ち止まって考えることは偽・誤情報等の拡散抑制に有効とされているが、SNS上で見かけた情報・ニュースに対して立ち止まって考える意向を尋ねたところ、**79.2%**が「**立ち止まって考えると思う**」と回答。
- また、情報の真偽判断精度が高い人ほど立ち止まって考える意向が高い傾向にあることが分かった。

立ち止まって考える意向



Q.あなたはSNS上で見かけた情報・ニュースに対して、真偽のわからない情報かもしれない、と拡散をする前に「立ち止まって考える」ことをしてみたいと思いますか。最も当てはまるものをひとつ選択してください。

偽・誤情報の拡散経験及び真偽判断精度別の意向



※ 真偽判断精度（実態）：

提示した7つの偽・誤情報と8つの正しい情報の判断精度により分類

HH：60%以上

H：40%以上60%未満

M：20%以上40%未満

L：20%未満

Q.あなたはSNS上で見かけた情報・ニュースに対して、真偽のわからない情報かもしれない、と拡散をする前に「立ち止まって考える」ことをしてみたいと思いますか。最も当てはまるものをひとつ選択してください。

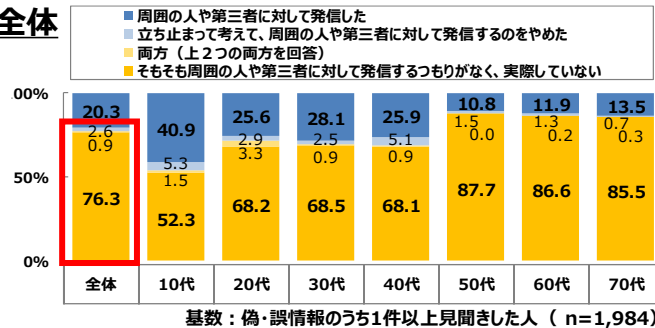
2.「立ち止まる行動」の重要性

立ち止まった経験、偽・誤情報の拡散理由

- 実際に偽・誤情報に接触した人のうち、そもそも拡散しようとしなかった人は76.3%、立ち止まって考えて拡散をやめたことがあると回答した人は2.6%であった。
- また、偽・誤情報の拡散経験のある人に理由を尋ねたところ、「情報が重要だと感じたため」(31.4%)が最も多く、「情報が興味深いと思ったため」(25.6%)、「情報に怒りや不安を感じ、それを表現したかったため」(20.0%)が続いた。

立ち止まった経験（行動ベース）

偽・誤情報の認知者全体



偽・誤情報別の経験

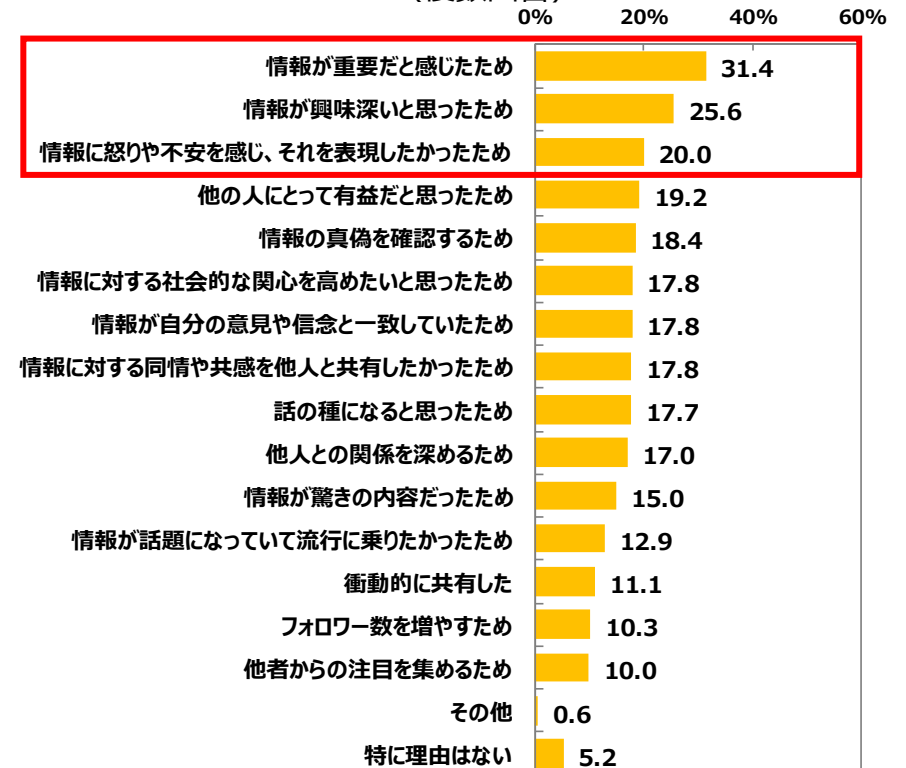
	立ち止まって考えずに、周囲の人や第三者に対して発信した	立ち止まって考えて、周囲の人や第三者に対して発信した	立ち止まって考えて、周囲の人や第三者に対して発信するのをやめた	そもそも周囲の人や第三者に対して発信するつもりがなく、実際にしていない	(%)
スウェーデンは、刑務所に収監されている四人のうち98%が移民である	23.3	30.0	7.9	38.8	46.6
ファイザー社が、新型コロナワクチンで大腸がんになると認めた	10.4	19.7	14.8	55.0	69.8
海外のショッピングモールで、トランスジェンダー風の人物が女性用トイレに入ろうとして、制止する男性と口論になった	11.0	9.1	2.5	77.5	80.0
外国人は、日本の国民健康保険や生活保護などの社会保障にただ乗りしている	6.5	1.9	8.8	82.8	84.7
日本が、イスラム教のモスク建設やブルカの着用などを禁じる「反イスラム法」を制定した	23.0	18.9	3.5	54.6	58.1
イランが、トバイのCIA本部を標的とした爆撃を行った	5.2	14.4	8.4	72.0	80.4
自閉症の子供が増えている原因には、0-3歳までに母親が接する時間が関わっている	20.2	12.4	5.8	61.6	67.4

基数：各情報認知者

Q.あなたが最近SNSを含むインターネット上や周囲の人から見聞きしたことのある以下の情報・ニュースに関する行動について、それぞれ当てはまるものをひとつずつ選択してください。※具体的な提示ニュースについては19ページ参照

偽・誤情報の拡散理由

（複数回答）



基数：偽・誤情報のうち1件以上見聞きした&拡散した人（n=749）

Q.あなたが、前問の情報・ニュースを周囲の人や不特定多数の第三者に対して発信した理由として当てはまるものをすべて選択してください。※具体的な提示ニュースについては19ページ参照

2. 「立ち止まる行動」の重要性

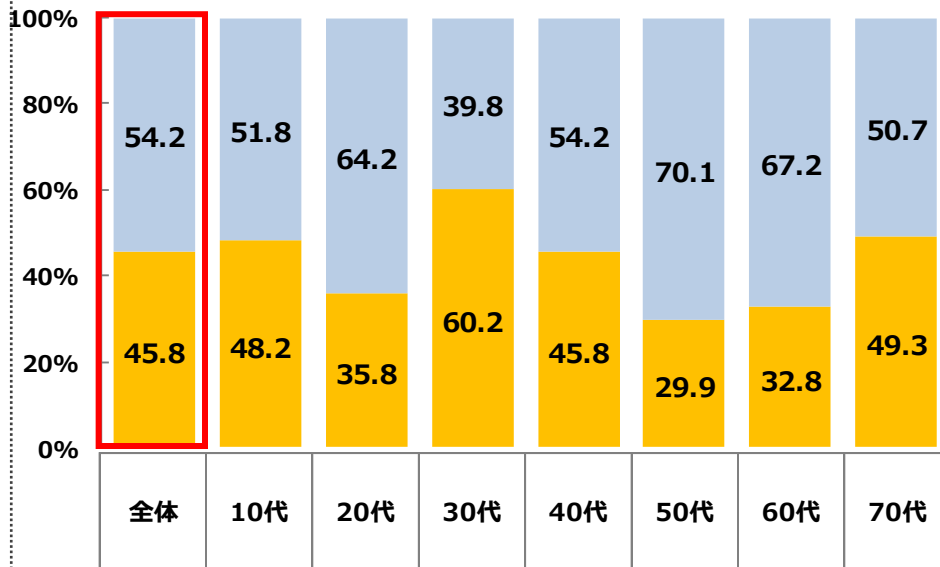
立ち止まった人のうち拡散経験別の傾向

- 偽・誤情報を拡散した人のうち、「**立ち止まって考えずに拡散した**」ケースは**45.8%**、「**立ち止まって考えて拡散した**」ケースは**54.2%**。「立ち止まって考えて拡散した」というケースがやや多い傾向が見られた。

立ち止まった経験（実態ベース）

偽・誤情報発信の内訳

- 立ち止まって考えて、周囲の人や第三者に対して発信した
- 立ち止まって考えずに、周囲の人や第三者に対して発信した



※基数：見聞きした偽・誤情報を拡散した際に「立ち止まって考えずに拡散した」あるいは「立ち止まって考えて拡散した」人（n=476）

注：7つの偽・誤情報について、「立ち止まって考えずに発信した」または「立ち止まって考えて発信した」と回答したケースをすべて合算し、その合計人数を母数として構成比を算出。

Q.あなたが最近SNSを含むインターネット上や周囲の人から見聞きしたことのある以下の情報・ニュースに関する行動について、それぞれ当てはまるものをひとつずつ選択してください。※具体的な提示ニュースについては19ページ参照

偽・誤情報別の経験

	経験別 (%)				拡散した計 (%)
	立ち止まって考えずに、周囲の人や第三者に対して発信した	立ち止まって考えて、周囲の人や第三者に対して発信した	立ち止まって考えて、周囲の人や第三者に対して発信するのをやめた	そもそも周囲の人や第三者に対して発信するつもりがなく、実際していない	
スウェーデンは、刑務所に収監されている囚人のうち98%が移民である	39.0	50.1	4.4	6.5	89.1
ファイザー社が、新型コロナワクチンで大腸がんになると認めた	26.0	49.3	16.6	8.0	75.4
海外のショッピングモールで、トランスジェンダー風の人物が女性用トイレに入ろうとして、制止する男性と口論になった	40.8	33.7	2.7	22.8	74.5
外国人は、日本の国民健康保険や生活保護などの社会保障にただ乗りしている	40.5	54.7	1.2	3.6	95.2
日本が、イスラム教のモスク建設やブルカの着用などを禁じる「反イスラム法」を制定した	49.6	40.7	3.6	6.2	90.3
イランが、ドバイのCIA本部を標的とした爆撃を行った	17.2	48.0	10.3	24.5	65.2
自閉症の子供が増えている原因には、0-3歳までに母親が接する時間が関わっている	54.9	33.9	0.5	10.7	88.8

基数：見聞きした偽・誤情報を拡散した際に「立ち止まって考えずに拡散した」あるいは「立ち止まって考えて拡散した」人（n=476）

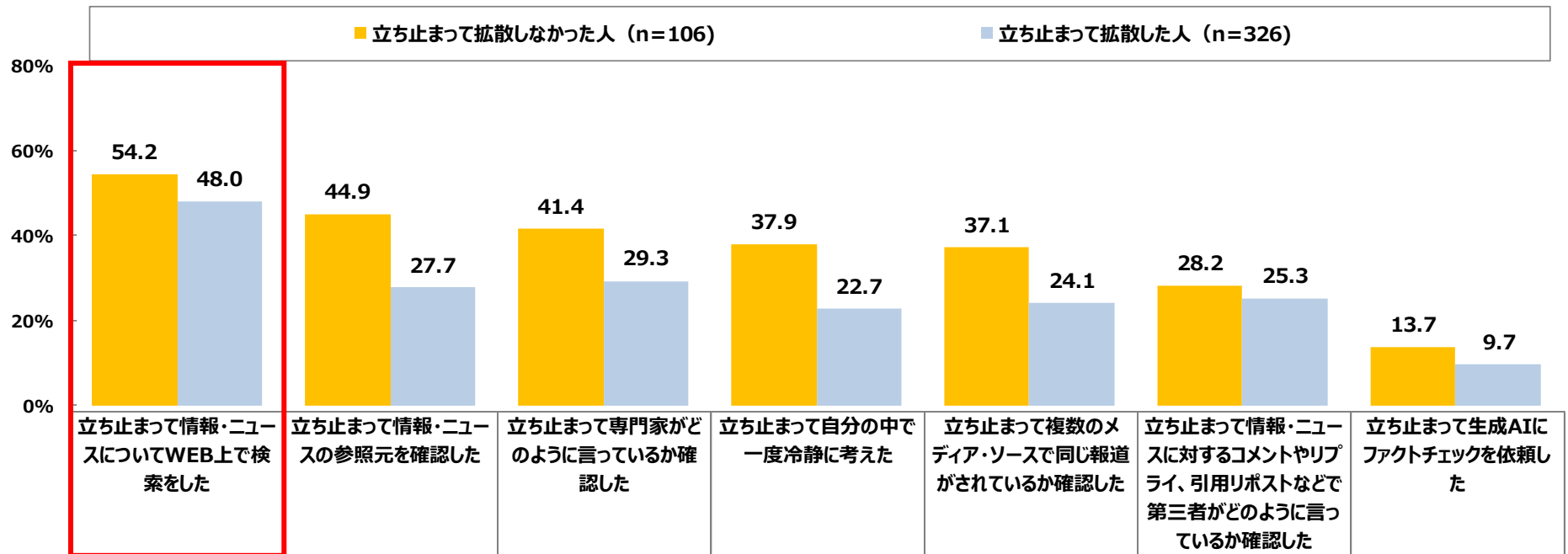
注：見聞きした偽・誤情報を拡散した際の行動別分析対象者（n=476）は、提示した偽・誤情報のうち少なくとも1つについて「立ち止まって考えずに拡散した」または「立ち止まって考えて拡散した」と回答した人である。なお、同一人物でも偽・誤情報の内容によって行動が異なるため、別の情報については「発信をやめた」「発信するつもりがなかった」と回答している場合がある。

2. 「立ち止まる行動」の重要性

立ち止まって考えた際の行動

- 立ち止まって考えた際の行動としては、「**情報・ニュースについてWEB上で検索をした**」という回答が最も多く、「情報・ニュースの参照元を確認した」「専門家がどのように言っているのか確認した」が続いた。
- **「立ち止まって拡散しなかった人」は「立ち止まって拡散した人」よりもいずれの行動も多い傾向が見られる。**特に「立ち止まって情報・ニュースの参照元を確認した」（拡散しなかった人44.9%、拡散した人27.7%）や「立ち止まって自分の中で一度冷静に考えた」（同37.9%、22.7%）で両者の差が大きい。

偽・誤情報で立ち止まった際の行動（複数回答）



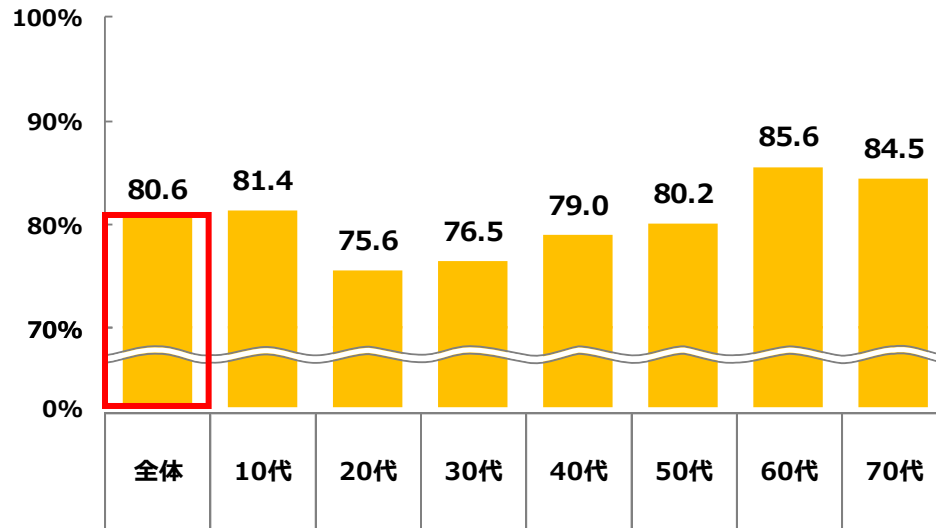
基数：各情報に接触した際に「立ち止まって拡散しなかった人」「立ち止まって拡散した人」（n=432）

3. 偽・誤情報及び「認知バイアス」に関する認識

偽・誤情報等への接触可能性等

- インターネットやSNS利用時に「**偽・誤情報等に触れている可能性がある**」と回答した人は**80.6%**で、「**偽・誤情報等を信じてしまう・騙されてしまう可能性がある**」と回答した人は**56.4%**であった。
- また、偽・誤情報等を信じてしまう・騙されてしまう可能性があると感じている人ほど、情報の真偽判断精度が高い傾向にあった。

偽・誤情報等への接触可能性

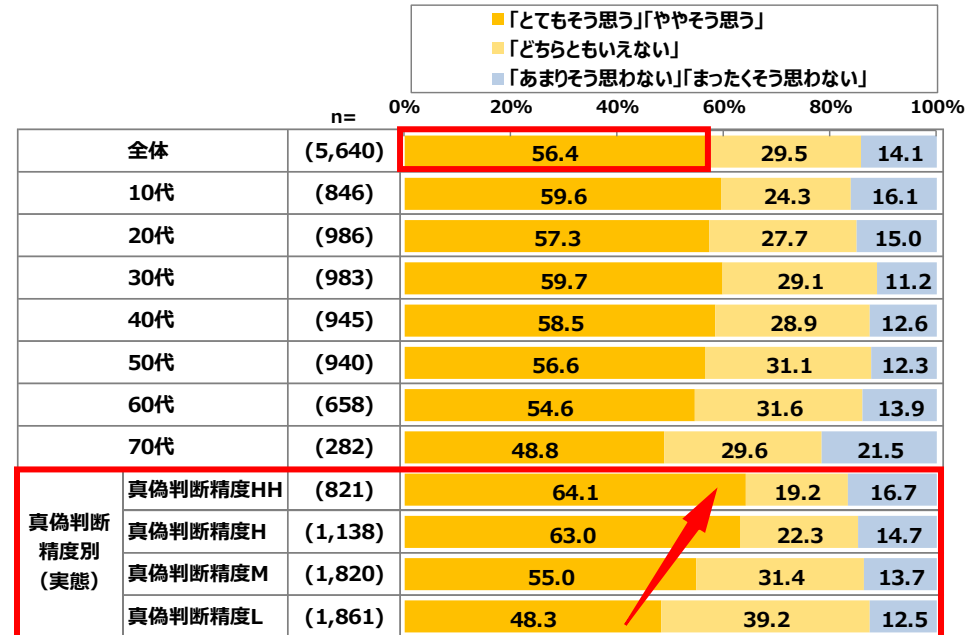


※「とてもそう思う」「ややそう思う」計の数値
※グラフは70%を基点としている

基数：全体 (n=5,640)

Q.あなたは、普段インターネット上の情報やSNSを利用・閲覧する際に、偽情報や誤情報（フェイク情報、デマ）、フェイク動画、詐欺広告などを目に見ている可能性があると思いますか。

偽・誤情報等を 信じてしまう・騙されてしまう可能性



※ 真偽判断精度（実態）：
提示した7つの偽・誤情報と8つの正しい情報の判断精度により分類
HH：60%以上
H：40%以上60%未満
M：20%以上40%未満
L：20%未満

基数：全体

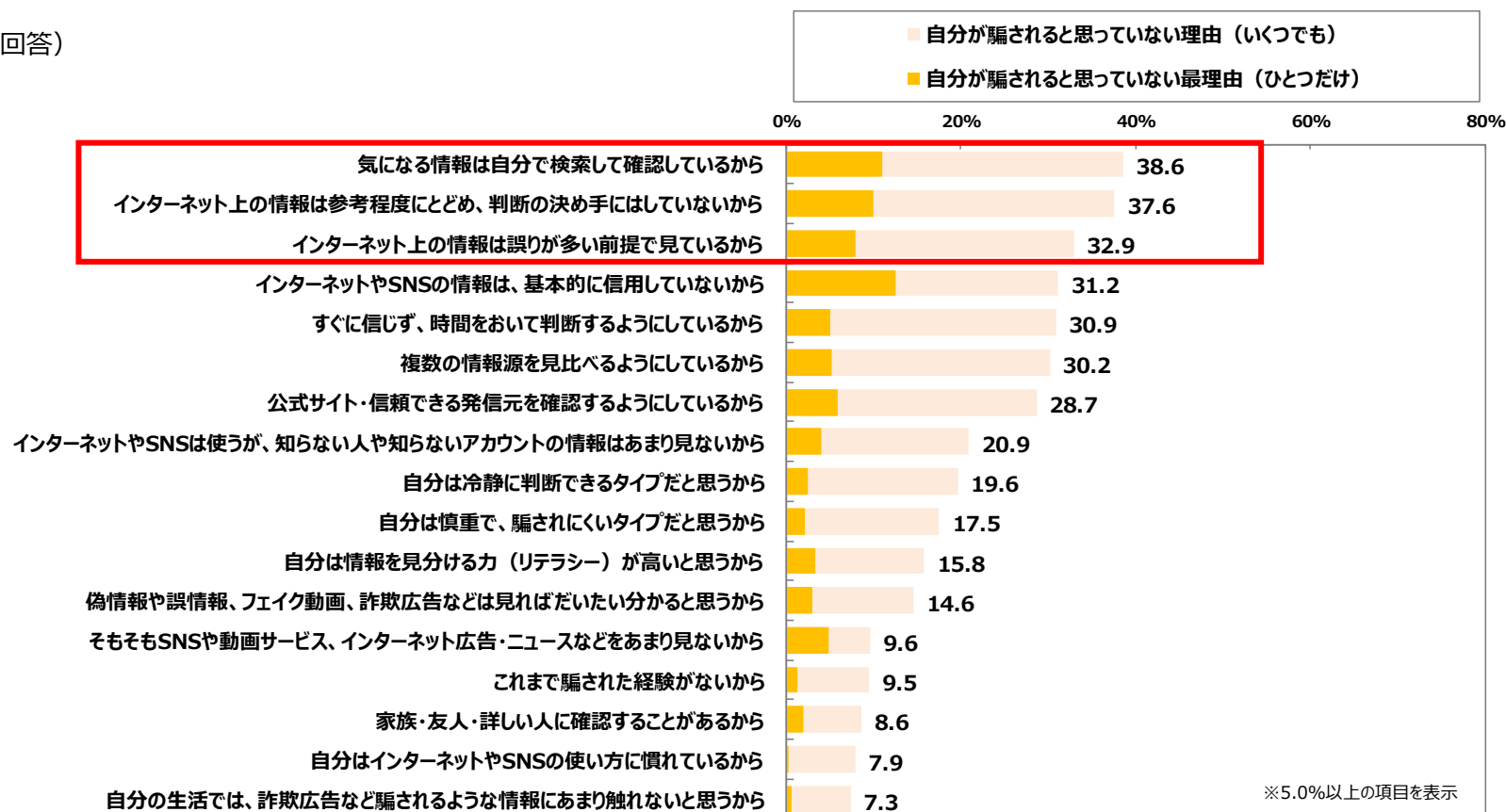
Q.また、あなた自身がこれらの情報（偽情報や誤情報（フェイク情報、デマ）、フェイク動画、詐欺広告など）を信じてしまう・騙されてしまう可能性があると思いますか。それぞれ最も当てはまるものをひとつ選択してください。

3. 偽・誤情報及び「認知バイアス」に関する認識

偽・誤情報等に騙されないと考える理由

- 偽・誤情報等を「自分は信じたり騙されない」と回答した人に対し、その理由を尋ねたところ、**「気になる情報は自分で検索して確認しているから」(38.6%)**、**「インターネット上の情報は参考程度にとどめ、判断の決め手にはしていないから」(37.6%)**、**「インターネット上の情報は誤りが多い前提で見ているから」(32.9%)**が高かった。

全体（複数回答）



基数：偽・誤情報に騙されないとと思っている人(n=792)

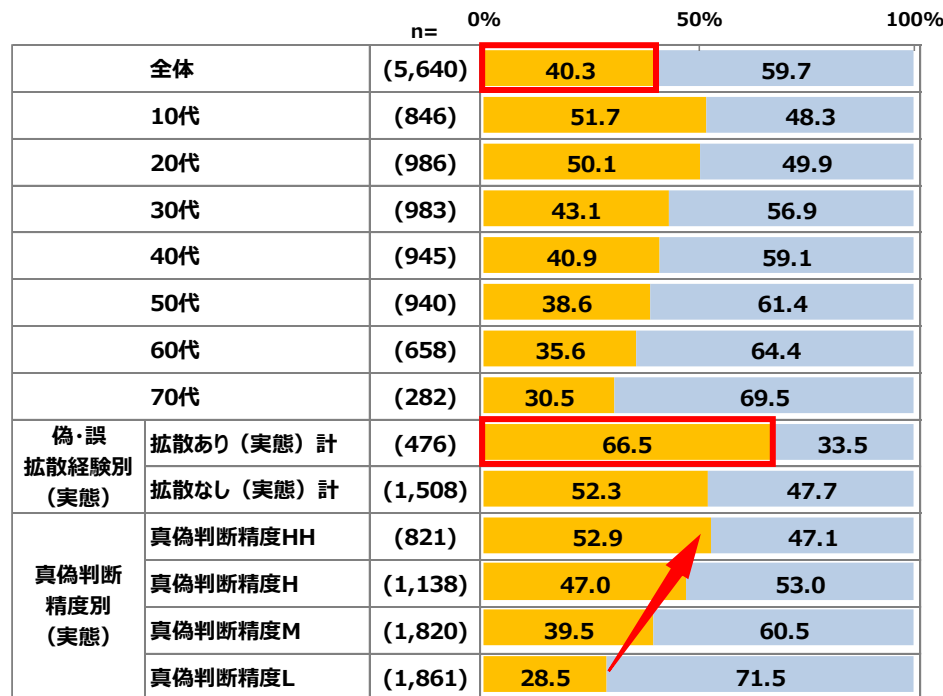
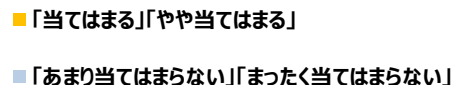
Q.前問で、ご自身が偽情報や誤情報（フェイク情報、デマ）、フェイク動画、詐欺広告などを信じてしまう・騙されてしまう可能性があるかどうかについて、【可能性があるとは思わない】とお答えの方にお伺いします。ご自分が信じたり騙されたりする可能性がないと思った理由をすべてお答えください。また、その中で最も強い理由をひとつだけお答えください。

3. 偽・誤情報及び「認知バイアス」に関する認識

「認知バイアス」の認知・実感

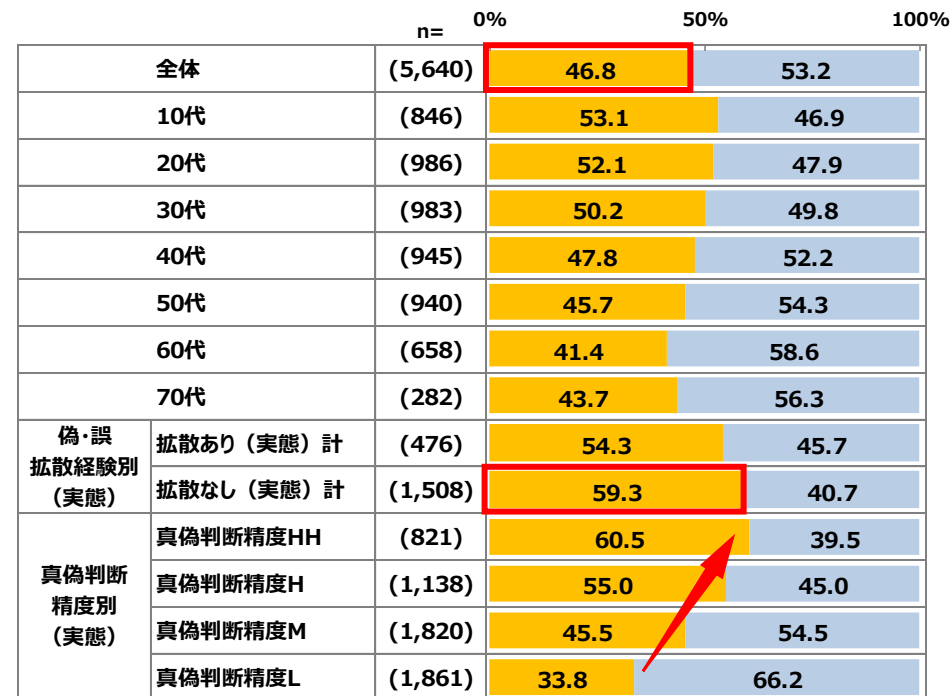
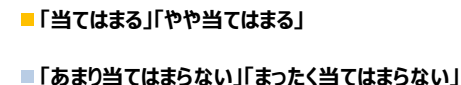
- 「**認知バイアス**」※を知っている人は**40.3%**で、**持っている実感がある人**は**46.8%**であった。また、「認知バイアス」を知っているまたは持っている実感がある人ほど、情報の真偽判断精度が高い傾向が見られた。
 - 「認知バイアスを知っている」人の割合は、拡散経験がある人の方が高い（**拡散経験のある人66.5%**、拡散経験のない人52.3%）が、「認知バイアスを持っている実感がある」人の割合は、拡散経験がない人の方が高かった（拡散経験のある人54.3%、**拡散経験のない人59.3%**）。このことから認知バイアスは知識として知るだけでは十分ではなく、自身にも起こり得るものとして理解・自覚することが、慎重な情報判断や拡散抑制につながる可能性が示唆された。
- ※認知バイアス：私たちが情報を見て判断するときに、無意識に起こる「考え方のくせ」のこと。例えば、自分の考え・好み・不安に合う情報だけを信じてしまう等

認知バイアスについて知っていた



基数：全体

認知バイアスを持っている実感がある



基数：全体

Q.あなたは、認知バイアスについて知っていましたか。また、知っているかどうかに関係なく、自分がこのような認知バイアスを持っていることの実感はありますか。

※認知バイアスとは・・・私たちが情報を見て判断するときに、無意識に起こる「考え方のくせ」のこと。誰でも持っていて、知らないうちに影響を受けています。この「くせ」のせいで、間違った情報を信じやすくなったり、拡散してしまったりと、合理的ではないかたよった判断をすることがあります。

3. 偽・誤情報及び「認知バイアス」に関する認識

認知バイアス等に関する認識とICTリテラシーテスト正答率の相関関係

- 認知バイアスについて、「知っている」「持っている実感がある」「立ち止まって考えたい」「拡散しないようにしたい」と回答した人は、そうでない人に比べてリテラシーテストの正答率が高い傾向が見られた。
 - ディープフェイク※を「自分は見破ることができる」と回答した人は、全問不正解の割合が他の回答をした人と比べて群を抜いて高かった（61.5%）。
- ※ディープフェイク：「ディープラーニング（深層学習）」と「フェイク（偽物）」を組み合わせた造語で、本物または真実であるかのように誤って表示し、人々が発言または行動していない言動を行っているかのような描写をすることを特徴とする、AI技術を用いて合成された音声、画像あるいは動画コンテンツのこと

リテラシーテスト正答率 (認知バイアスに関する認識・態度別)

		(認知バイアスに関する認識・態度別)				(%)			
		n=	全問正解	3 ～ 4 問正解	1 ～ 2 問正解	全問不正解			
全体		(5,640)	5.6	25.5	29.4	39.5			
認知バイアスに関する認識・態度	知っている	(2,290)	9.3	36.9	28.5	25.3			
	知らない	(3,350)	3.2	17.7	30.1	49.0			
	持っている実感がある	(2,662)	8.8	34.5	30.6	26.2			
	持っている実感がない	(2,978)	2.9	17.5	28.5	51.1			
	立ち止まって考えたい	(4,174)	6.9	30.4	32.3	30.4			
	立ち止まって考えたいと思わない	(1,466)	1.6	9.7	20.5	68.3			
	拡散しないようにしたい	(4,661)	6.4	28.3	31.6	33.8			
	拡散しないようにしたいと思わない	(979)	1.5	10.5	18.0	70.0			

Q. あなたは、認知バイアスについて知っていましたか。

また、知っているかどうかに関係なく、自分がこのような認知バイアスを持っていることの実感がありますか。

これらの認知バイアスがあると知ったことで、今後インターネット・SNSを利用する際に、情報を見たら立ち止まって考えたいと思いますか。情報をむやみに拡散しないようにしたいと思いますか。当てはまるものをお選びください。

基数：全体

リテラシーテスト正答率 (ディープフェイクに関する認識・行動別)

		n=	(%)			
			全問正解	3 ～ 4 問正解	1 ～ 2 問正解	全問不正解
全体		(5,640)	5.6	25.5	29.4	39.5
ディープフェイク 認識・行動別	当てはまる	(627)	6.3	24.9	32.0	36.8
	どちらかといえば当てはまる	(2,381)	6.3	30.2	29.0	34.6
	どちらかといえば当てはまらない	(2,002)	5.8	23.2	32.0	39.1
	当てはまらない	(630)	2.2	15.5	20.8	61.5

基数：全体

Q. AIによって生成されたディープフェイク（偽の画像・音声・映像）に関する認識や行動について、以下の項目ごとに自分に当てはまるものをお選びください。（このアンケートにお答えになる前のことについてお答えください）

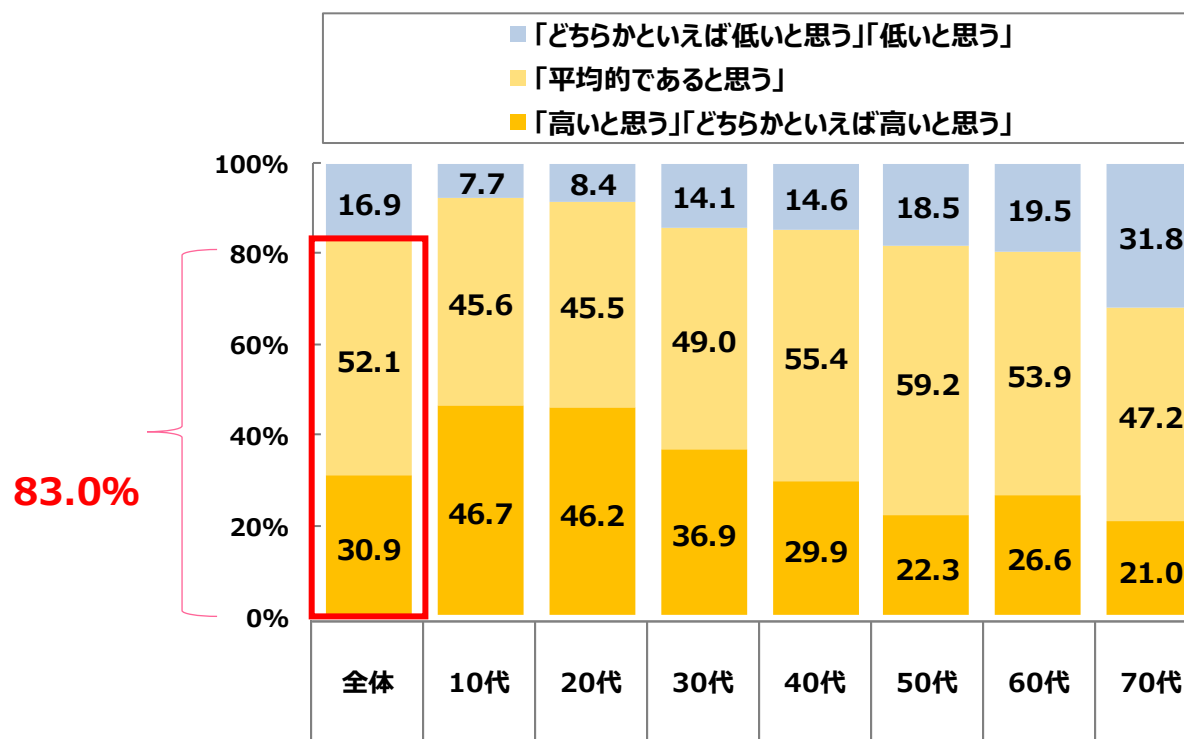
※「自分は見破ることが出来ない・騙されると思う」について、「当てはまる」「どちらかといえば当てはまる」「どちらかといえば当てはまらない」「当てはまらない」のうちから選択

4. ICTリテラシーに関する認識・取組状況等

ICTリテラシーに対する自己評価

- 自分のICTリテラシーについて、**平均的または平均より高いと思うと回答**した人は、**83.0%**であった。
- ICTリテラシーの自己認識が平均以上の人の割合は、若年層ほど高い傾向にあり、年代別では10代が最も高かった。

インターネット・SNS上での行動についてご自身のICTリテラシー

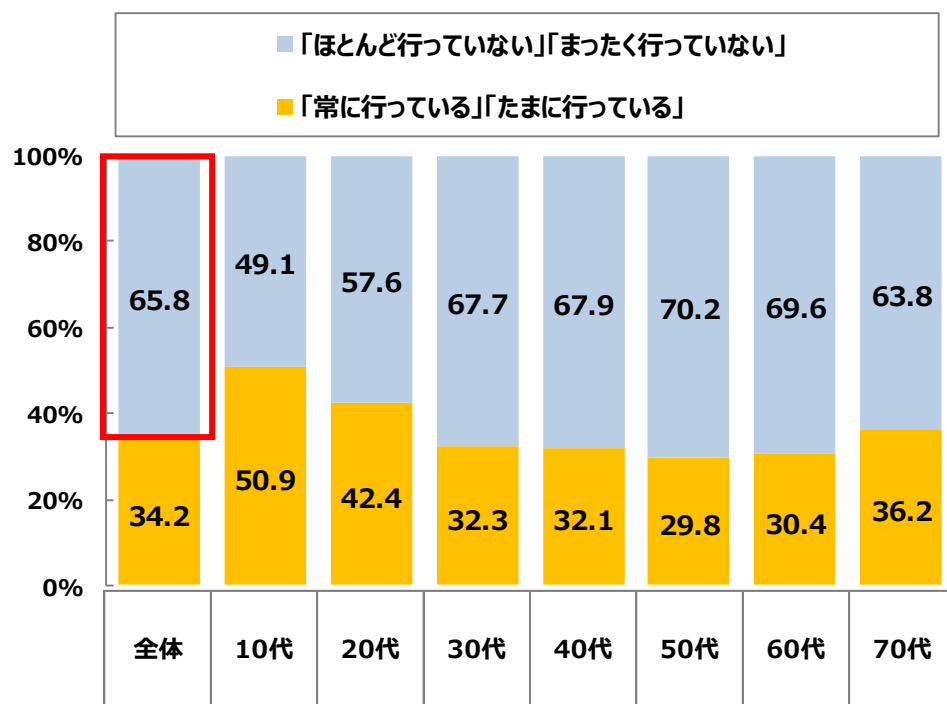


4. ICTリテラシーに関する認識・取組状況等

ICTリテラシー向上の取組

- **ICTリテラシー向上に向けた具体的な取組を「行っていない」人は65.8%**であった。
- 取組を実施しない理由としては、**「取組み方が分からない」(50.4%)**が最も多かった。

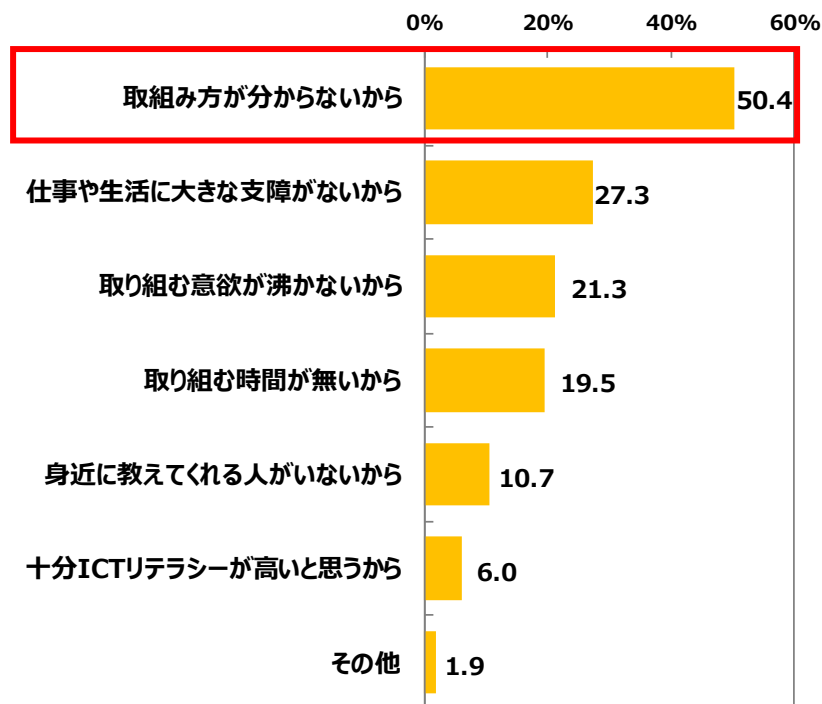
自分のICTリテラシーを向上させるための取組状況



基数：全体 (n=5,640)

Q.あなたは、自分のICTリテラシーを向上させるために何か具体的な取組（啓発教材の活用、ニュースのチェック等。方法や内容は問わない）を行っていますか。当てはまるものをひとつ選択してください。

ICTリテラシー向上の取組の非実施理由（複数回答）



基数：ICTリテラシー向上の取組を行っていない人 (n=3,685)

Q.あなたはICTリテラシーを向上させるための取組を「ほとんど行っていない」「まったく行っていない」と回答されましたが、その理由について当てはまるものをすべて選択してください。

4. ICTリテラシーに関する認識・取組状況等

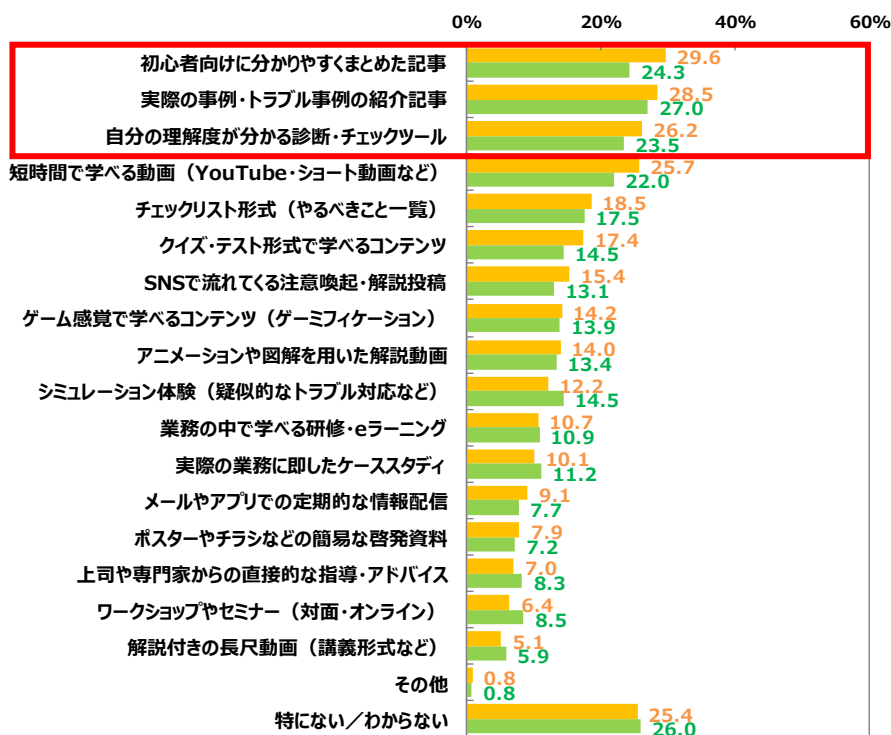
ICTリテラシー向上のための素材・サービス

- ICTリテラシー向上に向けて取り組みやすい/効果がある素材として、「**初心者向けに分かりやすくまとめた記事**」「**実際の事例・トラブル事例の紹介記事**」「**自分の理解度が分かる診断・チェックツール**」が上位に並んだ。
- 使いたい/ICTリテラシー向上に繋がりそうな機能・サービスとしては、「**フェイクニュース注意報**」「**ファクトチェック結果の表示**」「**出典の明示**」と回答した人が多かった。

ICTリテラシー向上のための素材評価

(複数回答)

■ 取り組みやすいもの ■ 効果があると思うもの



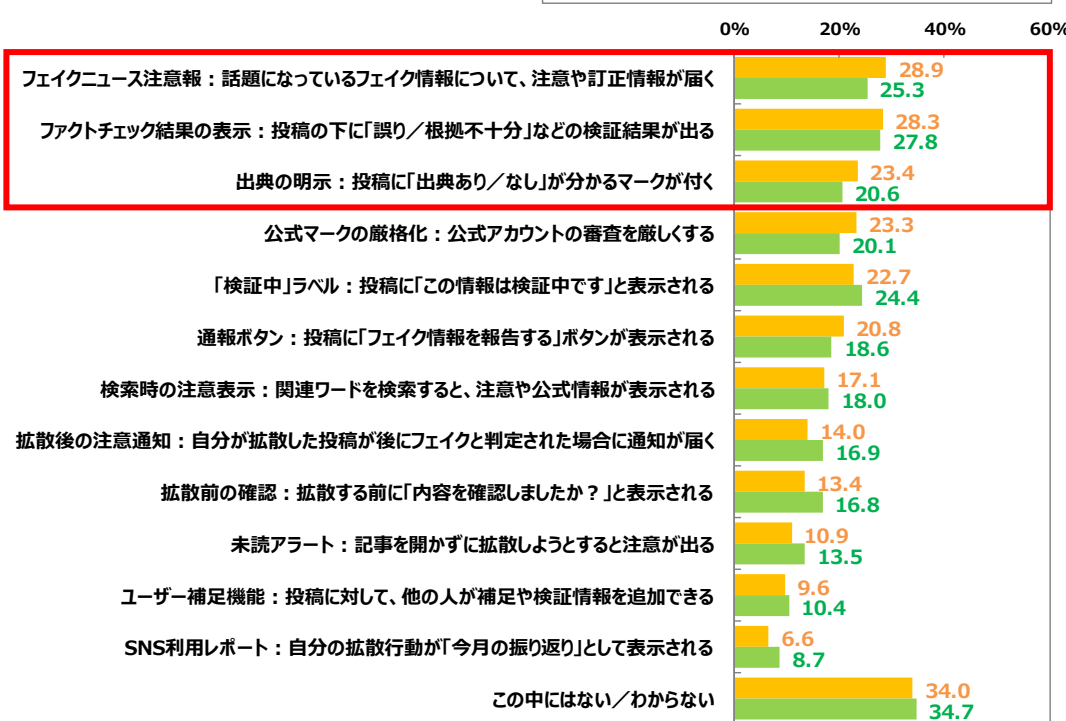
基数：全体 (n=5,640)

Q.あなたは、自分のICTリテラシーを向上させるために、どのような啓発素材であれば取り組みやすい、または効果があると思いますか。それぞれ当てはまるものをすべてお選びください。

ICTリテラシー向上に繋がる機能・サービス

(複数回答)

■ 使ってみたい機能・サービス ■ ICTリテラシー向上に繋がりそうな機能・サービス



基数：全体 (n=5,640)

Q.あなたは、インターネットやSNSに関する以下の機能・サービスを使ってみたいと思いますか。また、これらの機能・サービスが自分や周りの人のICTリテラシーの向上に繋がると思いますか。

5. 各組織・団体に期待すること

安心できる情報社会づくりへの取組

- 安心できる情報社会づくりの主体に期待する内容としては、いずれの組織・団体に対しても「**正しい情報の発信**」と回答した人の割合が高く、**マスメディア(63.3%)**、**WEBメディア(60.1%)**、**デジタルプラットフォーマー(54.2%)**が上位に並んだ。

各組織・団体に期待すること

(複数回答)

																							(%)
	関連する法律の新設・改定	情報発信に関するルール・ガイドラインの策定・改定	特定のデジタルサービスに関するルール・ガイドラインの策定・改定	正しい情報の発信	情報の正確性の確認・ファクトチェック	偽情報や誤情報（フェイク情報、デマ）の訂正（誤りを正しい内容に直す）	偽情報や誤情報の指摘（偽情報・誤情報であることを指摘する）	情報リテラシーの必要性に関する情報発信	情報リテラシー向上のための情報発信（教材の提供など）	情報リテラシー向上のための教育活動（授業・講義の実施など）	偽情報や誤情報からユーザーを守るための技術研究・開発	偽情報や誤情報からユーザーを守るための具体的な商品やサービスの開発	その他	取り組むべきこと・期待することはない									(%)
政府	51.7	44.8	35.0	51.3	31.1	26.9	24.5	24.6	20.9	20.8	22.2	17.7	0.3	15.3									
地方自治体	23.9	27.6	21.7	51.7	25.6	21.2	18.3	19.0	15.1	16.8	9.6	8.8	0.1	22.2									
デジタルプラットフォーマー	-	35.6	29.9	54.2	41.0	36.4	31.5	22.7	16.4	13.7	27.0	25.8	0.2	17.8									
マスメディア	-	30.7	24.2	63.3	39.1	35.9	30.0	25.0	16.6	13.5	14.0	13.2	0.7	17.0									
WEBメディア	-	31.4	25.4	60.1	39.1	35.2	29.8	24.0	15.5	11.9	17.3	15.8	0.4	18.1									
NGO、NPO	-	19.7	17.1	43.6	24.2	19.6	17.5	16.4	13.1	14.0	10.4	10.0	0.2	30.9									
自分が所属している学校や企業	-	19.6	15.6	40.6	21.3	16.2	14.7	16.5	16.6	21.7	9.5	8.0	0.1	27.8									
コミュニティ	-	13.6	10.1	43.2	18.5	13.5	12.1	12.9	9.4	12.3	5.2	4.8	0.2	32.5									
個人	-	6.9	6.7	45.9	35.1	13.1	12.4	7.1	5.2	6.0	5.2	4.0	0.4	24.3									

基数：各主体を選択した人
(n=5606)

Q. 安心できる情報社会づくりのために、以下の組織・団体・個人が積極的に取り組むべきこと／組織・団体に期待することはどんなことでしょうか。あなたの考えに当てはまるものをすべて選択してください。

Q1 次のうち、正しいものをすべてお選びください。

- a. 意図的に作られた虚偽の情報のみが、二セ・誤情報とみなされる
- b. 二セ・誤情報は、内容の正確性よりも感情を刺激する要素が強いため、真実・事実よりも拡散されやすい
- c. 面白くない情報、興味をひかない情報を二セ・誤情報と呼ぶ
- d. 人々の善意や正義感を利用することで、二セ・誤情報は広まりやすくなる
- e. この中に正しいものはない

正解 b,d

Q2 次のうち、正しいものをすべてお選びください。

- a. 一部の事実を含んでいる情報であれば、誤りを含んでも二セ・誤情報とはみなされない
- b. 企業の公式発表は、事実に基づいているため常に信頼できる
- c. グラフは、作成者の意図によって異なる印象を与えることがある
- d. 統計データを意図的に誤解させるような形で利用した二セ・誤情報が存在する
- e. この中に正しいものはない

正解 c,d

Q3 次のうち、正しいものをすべてお選びください。

- a. SNSの投稿内容を見れば、世間の動きや意見を客観視できる
- b. SNSのアルゴリズムは、特定の傾向を持つ情報を優先的に表示することがあり、それが二セ・誤情報の拡散に影響を与える可能性がある
- c. ネットのニュースは、ユーザーの関心や行動履歴に基づいて異なる記事が表示されることがある
- d. 多くのSNSでは、ユーザーが関心を持つ情報が優先的に表示されるため、似たような意見ばかり目にする傾向がある
- e. この中に正しいものはない

正解 b,c,d

Q4 次のうち、正しいものをすべてお選びください。

- a. 広く拡散されている情報は信頼性が高い
- b. ある情報について、その分野の専門家による事実に基づいた見解は信頼性が高い
- c. 情報の出典が明確でない情報は特に慎重に検証する必要がある
- d. 身近な人（家族や友人）からの情報は信頼してよい
- e. この中に正しいものはない

正解 b,c

Q5 次のうち、正しいものをすべてお選びください。

- a. 情報の出典を確認し、より信頼性が高い情報源を参照することが望ましい
- b. ある情報について、異なる視点や反論がある場合、それらを確認することで情報の正確性をより確認できる
- c. 人命にかかわる情報を見たら、すぐに拡散すべきである
- d. 混乱しないため、最初に見た1つの情報源を優先することが望ましい
- e. この中に正しいものはない

正解 a,b

リテラシーテストの正答率 (年代別)

		(%)				
		Q 1 正 解	Q 2 正 解	Q 3 正 解	Q 4 正 解	Q 5 正 解
n=						
全体	(5,640)	37.6	36.2	21.7	25.4	40.0
10代	(846)	35.2	30.7	20.4	35.5	41.5
20代	(986)	41.4	41.7	21.2	30.8	41.7
30代	(983)	37.3	35.5	21.4	25.7	37.9
40代	(945)	34.5	30.0	19.3	20.6	33.8
50代	(940)	39.3	38.9	24.8	24.4	37.7
60代	(658)	37.2	36.6	23.6	23.3	44.0
70代	(282)	38.6	39.1	19.0	27.4	46.4

基数：全体

Q. 次のうち、あなたが、正しいと思うものをすべてお選びください。 ※具体的なテストの内容については17ページ参照

リテラシーテストの正答率 (偽・誤情報の拡散経験及び真偽判断精度別)

※ 真偽判断精度（実態）：
提示した7つの偽・誤情報と
8つの正しい情報の判断精度により分類
HH：60%以上
H：40%以上60%未満
M：20%以上40%未満
L：20%未満

			(%)				
※ 真偽判断精度（実態）： 提示した7つの偽・誤情報と 8つの正しい情報の判断精度により分類 HH：60%以上 H：40%以上60%未満 M：20%以上40%未満 L：20%未満			Q 1 正 解	Q 2 正 解	Q 3 正 解	Q 4 正 解	Q 5 正 解
n=							
全体		(5,640)	37.6	36.2	21.7	25.4	40.0
偽・誤 拡散経験別 （実態）	拡散あり（実態）計	(476)	30.6	25.1	15.9	21.6	29.8
	拡散なし（実態）計	(1,508)	50.3	48.1	29.2	32.4	54.3
真偽判断 精度別 （実態）	真偽判断精度HH	(821)	56.5	50.9	36.3	35.4	63.0
	真偽判断精度H	(1,138)	43.4	41.7	23.8	29.8	43.6
	真偽判断精度M	(1,820)	34.7	35.0	18.5	24.0	37.6
	真偽判断精度L	(1,861)	24.9	24.3	14.6	17.6	25.8

基数：全体

Q. 次のうち、あなたが、正しいと思うものをすべてお選びください。 ※具体的なテストの内容については17ページ参照

調査内で提示した情報は以下の15項目であり、偽・誤情報はこのうち1-7（8-15は正しい情報）

提示した情報	
1.	スウェーデンは、刑務所に収監されている囚人のうち98%が移民である
2.	ファイザー社が、新型コロナワクチンで大腸がんになると認めた
3.	海外のショッピングモールで、トランスジェンダー風の人物が女性用トイレに入ろうとして、制止する男性と口論になった
4.	外国人は、日本の国民健康保険や生活保護などの社会保障にただ乗りしている
5.	日本が、イスラム教のモスク建設やブルカの着用などを禁じる「反イスラム法」を制定した
6.	イランが、ドバイのCIA本部を標的とした爆撃を行った
7.	自閉症の子供が増えている原因には、0-3歳までに母親が接する時間が関わっている（自閉症の子供の増加は母親と接する時間が減ったからである）
8.	日銀は金融政策決定会合で大規模金融緩和策を維持することを決めた
9.	総務省は2026年2月の消費者物価指数が前年同月比で上昇したと発表した
10.	厚生労働省は、昨シーズンのインフルエンザ患者数について、2026年2月中旬時点で減少傾向にあると発表した
11.	2026年冬シーズンの新型コロナの感染状況について専門家会合は落ち着いた状態が続いていると分析した
12.	南海トラフ地震を想定した政府の防災訓練が公開された
13.	政府は2026年度予算案を衆議院で可決し、参議院に送付した
14.	アメリカと中国は、気候変動対策をめぐる協議を再開することで合意した
15.	全国で相次ぐ特殊詐欺被害を受け、警察庁は注意喚起を強化すると発表した

※上記の1-7は、過去に流通したものであって、ファクトチェック機関（[日本ファクトチェックセンター \(JFC\)](#)）が、偽・誤情報と判定・公表したのから選定している。